

2023年9月のてがたんは定員20名の申し込み制で開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、10月14日(土)で、テーマは「空を見上げてみよう」です。ぜひご参加ください。10月1日(日)から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回のとがたん下見は、10月8日(日)です。

9月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 → 博物館裏の林 → 博物館駐車場東側 → 釣り堀裏 → 遊歩道
- 観察日時と天気：2023年9月9日(土) 10:00~12:00 曇り
- 参加人数：8名(大人5名、大学生1名、小学生2名)
- 市民スタッフ：6名(石原直子、伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1人(岩本二郎)

観察した生き物の記録

*は9月3日の下見だけで見られたもの。

【鳥類】キジ科：キジ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：ダイサギ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ツバメ科：ツバメ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／メジロ科：メジロ／セッカ科：セッカ／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ／家禽および外来種：ドバト(ハト科)

【爬虫類】トカゲ科：ヒガシニホントカゲ／ヤモリ科：ニホンヤモリ

【両生類】ヌマガエル科：ヌマガエル

【昆虫】カゲロウ目：カゲロウの一種(幼虫)*／ゴキブリ目：モリチャバネゴキブリ／トンボ目：アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、ウスバキトンボ／バッタ目：ショウリョウバッタ、オンブバッタ、ウスイロササキリ、キンヒバリ、クサヒバリ、シバズ、マダラスズ、エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、オカメコオロギ、コバネイナゴ／カメムシ目：キマダラカメムシ、ヨコヅナサシガメ、オオホシカメムシ、キョウチクトウアブラムシ、ナシグンバイ、ツマグロオオヨコバイ*、ツクツクボウシ／コウチュウ目：コアオハナムグリ、／ハチ目：モンズズメバチ／チョウ目：アメリカシロヒトリ(幼虫)、モンクロシャチホコ(幼虫)、セスジスズメ(幼虫)、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ

【クモ類】ジグモ科：ジグモ(巣)／タナグモ科：コクサグモ／ヒメグモ科：シロカネイソウロウグモ／ジョロウグモ科：ジョロウグモ／アシナガグモ科：アシナガグモ／コガネグモ科：ナカムラオニグモ*／ハナグモ科：コハナグモ*

【陸産貝類】ナメクジ科：ナメクジ

【植物】草の花 ヒガンバナ科：タマスダレ／ツユクサ科：ツユクサ／カヤツリグサ科：アゼガヤツリ、カヤツリグサ、ヤマイ／イネ科：メヒシバ、オヒシバ、シマスズメノヒエ、スズメノヒエ、エノコログサ／ブドウ科：ヤブカラシ／アカバナ科：ヒレタゴボウ、ユウゲショウ／カタバミ科：カタバミ／トウダイグサ科：エノキグサ、コニシキソウ／アブラナ科：スカシタゴボウ／ヒユ科：イヌビユ／アカネ科：ヘクソカズラ／ヒルガオ科：ヒルガオ／シソ科：トウバナ／サギゴケ科：トキワハゼ／クマツヅラ科：クマツヅラ／キク科：ブタクサ、アメリカカタカサブロウ、ハキダメギク、キクイモ、セイヨウタンポポ

木の花 ミソハギ科：サルスベリ／マメ科：ヤマハギ／アオイ科：ムクゲ／スイカズラ科：ツクバネウツギ

木の実 ツツラフジ科：アオツツラフジ／ミズキ科：ヤマボウシ

9月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「好かれない生きものたち」でした。たとえ人間には好かれていないとしても、生物は生態系の中で重要な役割を担っていることや、漢方薬などで意外な生物が人間の役に立ってきていることを紹介しました。ニホンヤモリが見つかり、触れる機会にも恵まれました。



今月の案内人

岩本二郎・石原直子さん・伊東茂子さん



① 落ち葉の中に多いが、人家には侵入しないモリチャバネゴキブリの幼虫



② カタツムリとは対照的に、嫌いな人も多いナメクジ



③ 草原で捕まえたエンマコオロギ



④ 匂いで嫌われることの多い、キマダラカメムシ幼虫の抜け殻



歩いたルートと観察した生き物



⑤ 夏の終わりを告げるツクツクボウシ



⑥ サクラに大量発生していたモンクロシャチホコの幼虫



⑦ 草の中に隠れていたヌマガエル



⑧ 樹の幹で捕まえたニホンヤモリ

今月の鳥 ハシブトガラス (スズメ目カラス科)

鳥の中から人間に好かれない生き物を挙げるとすれば、個人的には、第1位はハシブトガラスではないかと私は思います。ゴミ袋を食い破って中の生ゴミを食べ、散らかされた痕を掃除しなければならないことがよくあります。また、果樹や野菜など農作物の食害もよく起こります。しかし、もし生態系の中からカラス類がいなくなってしまうと、困ることもたくさんありそうです。カラス類は雑食性で、生物の死骸も食べますが、これは特に重要な役割です。腐敗した死骸が無くならないと衛生的にも問題がある上、食べてくれるからこそ、有機物が分解され、無機物となって、再び植物の栄養となります。カラス類には、死を予感させる不吉な鳥というイメージもありますが、生命とは循環するものであり、そのためには死だけでなく、死から新たな生へとつながることが必要です。カラス類はその役割を担う重要な生物でもあるのです。



ゴミ袋をつつく様子